

平成10年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

関谷橋・鎧橋・軍畑大橋

J R 青梅線の軍畑駅の下には、西多摩地区における橋梁技術の進歩を示す三本の橋があります。どこにでもあるような橋ですが、それを土木技術や、技術を受け入れた地元住民の立場を比較しながら観察すると、ひと味、異なった物語が聞こえてきます。

まず関谷橋についてみると、この橋は軍畑入口の信号から青梅街道（国道 411 号線）を西方へ約 180m 進んだ位置で、街道が谷久保川を横切る、沢井 1 丁目 389 番地先に架かっています。橋の長さは約 10m で、橋の上にはアスファルト舗装になっており、橋の北西脇には馬頭観音が祀られています。正面に「馬頭観世音」と陰刻された自然石は、高さ 63.5 c m、幅約 31.5 c m の大きさで、明治 18 年 5 月に、新井貞五郎によって祀られたものです。建立された時は、まだ馬による荷物の運搬が盛んであったことを示しています。

関谷橋の東北側を注意して見ると、幅 2 m 前後の小道が北側（上流側）に大きく迂回し、谷久保川を横切るところでは、川原を渡るようになっていきます。要するに、街道が谷久保川を横切るところには、かつては橋はなかったのです。現在のように、街道が直線になったのは、大正 2（1913）年のことでした。

次に、鎧橋（西城橋）について見ましょう。この橋は軍畑入口の信号から街道を東方へ約 50m 離れた位置に架かっています。現在の鎧橋は、信号から直線上に東方に延びていますが、かつては石垣の直下を通っていました。現在は行止まりですが、そこには平溝川に架かる延長約 50m の西城橋がありました。西城橋が架けられたのは昭和 4 年 6 月で、鉄橋でした。西城橋が完成する以前、すなわち昭和 4 年までの青梅街道は、二俣尾駅の西方から坂を上って、見晴らしの良い西城橋を通して平溝川に架かる奥沢橋を渡り、そこから平溝川に沿って南下し、鎧塚の前を通して、駅入口の信号へ続いていました。奥沢橋は延長約 12m、幅約 3.8m で、明治 36 年（1903）年に架けられた鉄筋コンクリート製の橋です。

西城橋が完成した後の交通量の増加に伴って、昭和 41 年 3 月 31 日に現在の鎧橋に架け替えられました。鎧橋は延長約 88m で、構造的には鉄筋構造の上路橋です。昭和 51 年に補修され、現在に至っています。

橋を架けるためには、多額の資金を必要とし、また建築のためには相応な技術が必要とします。さらに、維持していくための経常経費も必要です。市内では、明治 40（1907）年に大柳と畑中を結ぶ、鉄筋コンクリート製の万年橋が架けられていますが、当時の青梅市内では明治時代末期頃までは、大規模な橋を架ける技術はなかったようです。

さて、多摩川に架かる軍畑大橋は、平成 3（1991）年 3 月に完成したモダンな橋です。延長約 140m の橋は道路の上部半分がアーチになった中路橋で、きわめて珍しい形式です。

（文責 角田）